

青空会事始

鍋田雄二

私の手元に「青空会ニュース第1号」があります。発行日は平成13年6月1日となっておりますが、ここには青空会設立の経緯などは書かれておりません。

ニュース発行の目的は「フォトショップ青空」から青空会に対して月間賞の副賞を寄付していただくことになったことを契機として、会員にいろいろな情報を提供する手段として、月2回発行することになったことが知らされていません。（平成14年1月からは月1回の発行に変更）

青空会の名称はこの会報にもある「フォトショップ青空」に由来しています。

「フォトショップ青空」は山田剛三氏（現会員）が店長として百合丘駅前に新しく開店した写真店で、できるだけ多くの人達が「現像・焼付け・引延し(DPE)」などで応援しようと桑原氏（初代会長）等の提案に同好の仲間数名が賛同して写真同好会「青空会」を発足させたもので、この年の4月から実質的な活動を始め、「青空会ニュース」が創刊されるまでに3回の撮影会が行われ、月例会は百合丘駅前の「喫茶美かさ」でお店の休店時間（14：00～16：00）をお借りして開催されていきました。

しかし、会の継続的な活動を続けるためには、月例会・写真展などは公共の施設の利用が必要との判断から当時の副会長渡辺氏の発案で、川崎市公共施設利用予約システムに登録することとし、会則の制定、会員名簿の整備を行い、平成13年6月30日に臨時総会を開催（会場は川崎信用金庫百合丘支店会議室を借用）して、6月1日に遡って会則が施行され、川崎市各区の市民館の諸施設を利用できる公認の団体として発足することになりました。

平成13年度の総会記録を見ると、この年の撮影会は鶴川の「高蔵寺」（しゃくなげ）に始まり「等覚院」（つつじ）、「神代植物公園」（ばら）、「薬師池公園」（花菖蒲）、「妙楽寺」（アジサイ）、「日向薬師」（彼岸花）、古沢のコスモス、「横浜界限」、「高幡不動」（紅葉）と近場の撮影ポイントを米寿に近い桑原会長が大変な健脚で、率先して会員を案内し引っ張っていかれました。

氏の健脚で思い出されるのは、この年の8月の暑い日に「ハマユウ」の撮影に有志と出かけたことです。横須賀市の佐島公園の海岸は「ハマユウ」自生の北限と言われる場所で知られていますが、交通は電車とバスを乗り継ぎ、海岸までは徒歩で行く行程でした。同行の成田氏（故人）や私よりも一回り以上も年上なのに、一脚をステッキ代わりにすたすたと歩いて私たちは遅れてしまう始末でした。撮影後近くのレストランで昼食をとりましたが、暑さのため食欲が減退する私たちをしり目に出された料理をすべて平らげるといふ健啖ぶりにも驚かされました。（会報や残された資料にはない思い出）

会報にはその月月例会での月間賞が記録されています。月間賞は例会に持ち寄られた作品を参加者の投票によって金、銀、銅の各賞を決めるもので、ちなみに、「フォトショップ青空」からの副賞は金賞に4PW 3枚プリント券、銀賞は同2枚券、銅賞は同1枚券（リバーサル、ネガどちらでも可）を提供されるものでしたが、これは残念ながら翌年4月に廃止されています。

また、写真展の記録では第1回は平成14年2月となっていますが、事実上の第1回写真展は桑原氏が交渉して百合丘駅前のレストラン「あいあい」の店内で平成13年9月25日から10月4日まで2週間にわたり会員の写真を展示したことでしょう。残念ながら出展者の氏名や点数は残っていませんが、展示のために会員総出で設営し、このお店の利用者からは大変好評であったとのことニュースに残されています。

「青空会ニュース」はこの第1号から今日まで延々と続いており、その時々会の活動を記録したのですが、特に初期の「ニュース」は私にとって会を辞めた人、すでに故人となられた人、そして様々な出来事を思い出させてくれる貴重な資料です。このニュースや残された資料の一端を紹介し、青空会の歴史を会員の皆さんに知ってもらえれば幸いです。

（注）「喫茶 美かさ」「レストラン あいあい」が現在営業中であるかどうかはわかりません。